

JR東海労ニュース

No. 831

2006年 8月 9日

JR東海労働組合

JR東海一部幹部・週刊現代・東海ユニオン幹部の 甘い関係!?

週刊現代が「デッチ上げ特集」を始めて今週で4週目になった。聞くとところによると、当初10週連載の予定が6週に縮小されたい。期待されたほどの「影響がない」ということなのか、「ネタが切れた」のか、金の「縁が切れた」のかは定かではないが、連載の必要性がなくなり打ち切られたことに違いない。

ところでこの内容についてであるが、いずれも古臭い過去ネタである。とにかくデッチ上げの首謀者にとっていいように捏造に捏造を重ねている。それは、過去に某誌が「カクマル」キャンペーンのために用いたネタと瓜二つである。

いずれにしろ、「カクマル」ではない私たちを「カクマル」とするデッチ上げが頓挫した今、今度は「テロリスト」などとデッチ上げてキャンペーンをはり、さも危ない人たちと煽りそそのかすこの卑劣極まりない愚行に対して、私たちは心底怒りを覚える。

それではいったい、誰が何のためにネタを提供しているのであろうか。本文のネタからして、それは間違いなくJR東日本の労使関係を一番面白く思っていない者である。過去に国取り物語よろしく、JR東日本の権力奪取に燃えた者がJR東海にいて、あらん限りの悪事をやってきたことは記憶に新しいところである。最近では別の「お国の仕事」も仰せつかっている人物。なにやら、それまでのデッチ上げの仕上げをしようとその必死さが見てとれる。

東海ユニオンによる組織情報や手紙の郵送は、事実このようなデッチ上げキャンペーンと連動して行われている。ユニオンの「今年を組織拡大の節目とする方針」にも妙に合致がいく。あまり目にしない東海ユニオンの必死さが、「デッチ上げ記事」を逆に証明しているようで滑稽である。ところで、浦和裁判の傍聴券獲得のために並んだJR連合組合員が、朝早くから一斉に週刊現代を読んでいたらしい。まさに異様な光景だ。まるで購入のノルマでも課せられているようである。

いずれにしろ、このデマ記事に絡んでいる金と権力と自己保身、立身出世は、上記の方たちにとってとても甘い関係のように見えるのは私たちだけであろうか？

ユニオン組合員の皆さん!ユニオン幹部はあなたのことなど考えていません!見切りをつけて東海労へどうぞ!!

